

6月4日 4年生 社会「わたしたちのくらしと水」

 単元テーマ:わたしたちのくらしと水

 本時のねらい:自分たちの問いから学びをつくる『課題設定』に挑戦する

子どものレディネス調査

- ①門真市の飲み水の一番の元はどこから？
- ②びわこから、どこを通過して何という川を通過してきますか？
- ③川以外にどこを通りますか？
- ④雨や川の水は飲めるようになりますか？
- ⑤トイレやお風呂で流した水はまた飲めると思いますか？
- ⑥いつも飲む水道水1リットルは何円くらいですか？
- ⑦場所によってねだんはちがうと思いますか？
- ⑧水をきれいにする場所の名前は？
- ⑨きれいになった水はどうやって はこばれますか？
- ⑩いつか水はなくなりますか？

前半:レディネステスト

どのくらい児童が学びを蓄積してきているか、簡単なミニテストをして実態を調査しました。

回答は、ノートに書き、写真で撮って、ロイロで提出してもらいました。

ミニテストの結果を見て、知らない、分からないは、学習の価値が上がってよいと思いましたが、あまりにも生活経験や生活基盤のしぐみの理解にばらつきがあるなあと感じました。

やはり社会は、自分たちのくらしを見つめるところからはじめ、くらしに学びを返していける

ようにしたいと強く思いました。

実践の概要

本時の後半は、単元導入段階で「課題設定」に重点を置いた学習を行いました。

子どもたちが、これからの学習を「自分ごと」として捉えられるように、最初に単元のルーブリック(評価の見通し)を提示しました。

知識・技能・思考・判断・表現力

評価のポイント	S(すばらしい！)	A(よくできた！)	B(もうすこし！)
水がどこからくるのか(水源)	水がどこから来るかを、資料を使ってくわしく場所や方法を説明できる	水がどこから来るかを、場所や方法を説明できる	水がどこから来るかを説明するのがむずかしい
水がどのようにとどくのか(経路と仕組みと工夫)	水がどのようにしてとどくのかのしくみや工夫を、くわしく(5つ以上のキーワード)説明できる	水がどのようにしてとどくのかのしくみや工夫を説明できる	水がどうやってとどくのかを説明するのがむずかしい
水のことを調べて整理し、まとめる力	自分なりの課題や問いを立てて、水のことを調べ、自分で分かりやすいまとめ方を工夫して、ノートやスライドでまとめている	水のことを調べて、ノートやスライドでまとめている	水のことを調べて、考えたり、まとめるのがむずかしい

学ぶ力

評価のポイント	S(すばらしい！)	A(よくできた！)	B(もうすこし！)
学ぼうとする気もち	水についての学習にとても興味をもち、自分からどんどん調べたり、友だちと考えを出し合ったりしている。	水についての学習にしっかりと取り組んでいる。わからないことは、先生や友だちに聞いたりして学ぼうとしている。	水についての学習にあまり取り組もうとしないことがあり、声かけやサポートが必要なことがある。
課題への取り組み方	自分の疑問や考えをもとに、学習の目的をはっきりさせて、計画的に活動を進めている。	学習のめあてを意識して、先生の話をよく聞き、言われたことにしっかりと取り組んでいる。	課題に対して何をしたらよいか迷うことがあり、自分から進んで活動しづらい。
友だちとのかかわり	話し合いや活動の中で、友だちの意見を大切に、自分の考えも伝えながら、いっしょに学ぼうとしている。	友だちの話を聞いて、自分の考えを言うことができる。協力して学習を進めようとしている。	話し合いや活動で、まわりとあまりかかわろうとしないことがある。

✨ 子どもたちの反応と学びの様子

「この単元ではどんなことを学んで、どんな力をつけていくのか」——

提示されたルーブリックを見ながら、子どもたちは「どんな学習が必要なのか」を考え、ロイロノートのふせん機能を使って思いついたことを少しずつ書き出していました。

しかし、予想以上に反応は鈍く、「むずかしいなあ...」「うーん...」という声も。

これまで“問いをつくる”ような学習に慣れていなかったことが背景にありそうです。

そこで教師もいっしょに内容をホワイトボードに書き出しながら、「こんなことが大事になりそうだね」とヒントを与え、少しずつ思考の方向づけを行いました。

「わたしたちのくらしと水」ではどんな学習が必要か

水がどこからきたのか

水をどうやってきれいにするか

水をどうやってどうめいにするか

水をどうやってるか

どうやって作るのか

水はくさるか

とどくまでのしくみ

とどくまでのくふう

水はどうやって送られるか → 説明する

🧠 指導者のふりかえりと今後の展望

今回の実践を通して、子どもたちにとって“課題設定”は簡単なことではないと改めて実感しました。

だからこそ、今後は「自分で問いを立て、学びの道筋を考える」経験を単元の導入で意図的に育てていく必要があると感じました。

次時は、このふせんで出された内容をもとに、単元全体の学習の流れを一緒に考えていく予定です。

「一人で流れをつくる」「全体で一緒に考える」など、いくつかのやり方を試しながら、子どもに合ったスタイルで課題設定力を育てていきたいと考えています。

📌 実践のポイントまとめ

観点	内容
工夫した点	単元のルーブリックを提示し、学びの見通しを持たせたこと
子どもの反応	「難しい」と感じながらも、ヒントにより少しずつ考え始める姿が見られた
今後に向けて	「問いを立てる力」や「学習計画を立てる力」を育む授業づくりを意図的に組み込んでいく